

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2018年）【2019年9月6日時点】

*参考：【 】内は2017年1月～12月の調査結果

病院版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院91施設
- (2) 調査対象期間：2018年1月から12月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル(Excel形式)でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：86.8%（79病院から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか

可：49病院（62.0%）

I 輸血管管理料取得状況について

47病院（59.5%）〔管理料Ⅰ：11病院、管理料Ⅱ：36病院〕

II I & A取得状況について

取得済：6病院（7.6%）、取得予定なし：73病院（92.4%）

III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数 【65病院（84.4%）】
65病院（82.3%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

17院

（指導医がない：8、他の委員会で協議：4、使用がほとんどない：4、その他：1）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科27（心臓血管、脳神経、整形等を含む）、内科23（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、麻酔科3、消化器科2、循環器科2、泌尿器科1、精神科1、小児科1、その他4、未回答：1）

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：46、12回/年：8、2回/年：3、1回/年：2、4回/年：2、3回/年：1、8回/年：1、1～2回/年：1、未回答：1

- (5) -1 県内認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）
認定・臨床輸血看護師：72、認定・アフェレーシスナース：4、認定・自己血輸血看護師：10
認定・輸血検査技師：21

- (5) -2 輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有65施設）

認定臨床輸血看護師：32（17/65） 認定・アフェレーシスナース：0

認定・自己血輸血看護師：4（2/65） 認定輸血検査技師：16（14/65）

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：57病院（72.2%）【56病院（66.7%）】

{	検査部	57件
	輸血部	3件
	薬剤部	3件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

{	検査部	63件
	薬剤部	17件
	輸血部	4件
	その他	3件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：71病院（89.9%）【74病院（88.1%）】

{	記録の頻度	毎日	72件
		週に1回	1件
		年に1回	1件
		その他	1件
		未回答	2件

警報装置：74病院（93.7%）【76病院（90.5%）】

{	冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度	毎日	48件、年に1回	11件、月に1回	7件、
		週に1回	2件、半年に1回	2件、	
		その他	8件、未回答	1件	

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：63病院（79.7%）【66病院（78.6%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：27病院（34.2%）
【33病院（39.3%）】

3) 管理記録簿等：79病院（100.0%）【84病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）

コンピュータ管理：22、手書き伝票：28、両方：28、その他：1

(4) 輸血前後の感染症検査の実施（新規調査）

輸血前のみ：18病院、輸血後のみ：8病院、両方：44病院、行っていない：9病院

1) 輸血前の感染症検査項目：	HBV	{	HBs抗原	61件
			HBs抗体	27件
			HBc抗体	22件
HCV	{	HCV抗体	60件	
		HCVコア抗原	19件	
HIV	{	HIV抗体	27件	
		その他	3件	

2) 輸血後の感染症検査項目：	HBV	{	核酸増幅検査	39件
			その他	11件
HCV	{	HCVコア抗原	40件	
		その他	11件	
HIV	{	HIV抗体	40件	
		その他	7件	

- (5) 感染症検査用検体の保管等
64病院 (81.0%) 【68病院 (81.0%)】

V 輸血検査および輸血実施について (新規調査)

- (1) 患者血液型検査の二重チェック : 59病院 (74.7%)
- (2) 不規則抗体スクリーニング
- 1) 輸血前不規則抗体スクリーニング : 69病院 (87.3%)
- 2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法 : 73病院 (92.4%)
- 3) 陽性となった場合の対応 : $\left\{ \begin{array}{l} \text{民間の検査センター} \quad 28\text{病院、自施設} \quad 26\text{病院、} \\ \text{血液センター} \quad 9\text{病院、自施設・血液センター} \quad 7\text{病院、} \\ \text{民間の検査センター・血液センター} \quad 4\text{病院、未回答} \quad 5\text{病院} \end{array} \right.$
- (3) 交差適合試験
- 1) 輸血前交差適合試験 : 79病院 (100.0%)
- 2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施 : 78病院 (98.7%)
- 3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法 : 75病院 (94.9%)
- 4) 陽性となった場合の対応 : $\left\{ \begin{array}{l} \text{自施設} \quad 32\text{病院、血液センター} \quad 22\text{病院、} \\ \text{民間の検査センター} \quad 16\text{病院、自施設・血液センター} \quad 6\text{病院、} \\ \text{自施設・民間の検査センター} \quad 1\text{病院、} \\ \text{民間の検査センター・血液センター} \quad 1\text{病院、未回答} \quad 1\text{病院} \end{array} \right.$
- (4) 患者認証方法
- 1) 実施場所 : $\left\{ \begin{array}{l} \text{患者ベッドサイド} \quad 54\text{病院、} \\ \text{患者ベッドサイド・ナースステーション} \quad 15\text{病院、} \\ \text{ナースステーション} \quad 9\text{病院、未回答} \quad 1\text{病院} \end{array} \right.$
- 2) 複数名で確認している : 74病院 (93.7%)、その他 1病院 (1.3%)
- 3) 電子照合システム導入 : 34病院 (43.0%)
- (5) 経過観察
- 1) 輸血開始後バイタルチェック : $\left\{ \begin{array}{ll} 5\text{分・15分} & 65\text{病院 (82.3\%)} \\ 5\text{分} & 7\text{病院 (8.9\%)} \\ 15\text{分} & 5\text{病院 (6.3\%)} \\ \text{未回答} & 2\text{病院 (2.5\%)} \end{array} \right.$
- 2) 輸血終了後バイタルチェック : 76病院 (96.2%)

VI 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 244,589 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 99,540 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、40.7%である。
- (2) 血小板製剤の使用量は 113,528 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、46.4%である。
- (3) 血しょう製剤の使用量は 31,521 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 12.9%である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 2,667 単位

【2,381 単位】

全血液製剤の廃棄率は 1.1%である。

【0.9%】

(1) 赤血球製剤の廃棄量は 1,529 単位。

【1,662 単位】

(2) 血小板製剤の廃棄量は 365 単位。

【210 単位】

(3) 血しょう製剤の廃棄量は 773 単位。

【509 単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 15 病院 【14 病院】

VIII 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 19,062 人 (うち、年代別不明：男性 204 人、女性 201 人)

90歳以上	1,988人 (10.4%)
80-89歳	5,468人 (28.7%)
70-79歳	5,302人 (27.8%)
60-69歳	3,241人 (17.0%)
50-59歳	1,269人 (6.7%)
40-49歳	592人 (3.1%)
30-39歳	322人 (1.7%)
20-29歳	154人 (0.8%)
10-19歳	74人 (0.4%)
5-9歳	32人 (0.2%)
0-9歳	215人 (1.1%)

{ 男性 9,508人 (49.9%)

{ 女性 9,554人 (50.1%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数：79)

※うち1施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数 10,046人

消化器内科：	2,296人
循環器内科：	1,185人
呼吸器内科：	167人
血液内科：	4,843人
その他内科：	1,555人

外科全体数 7,929人

消化器外科：	1,833人
呼吸器外科：	316人
心臓血管外科：	1,590人
形成外科：	116人
整形外科：	2,385人
脳神経外科：	585人
その他外科：	1,104人

その他診療科全体数	4,950人
{ 小児科： 産婦人科： 泌尿器科： 麻酔・集中治療科： その他： }	294人
	1,064人
	1,543人
	1,926人
	123人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：26病院（32.9%） 【32病院（38.1%）】

○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：1,453例（26例） 【1,611例（54例）】
 採血量（貯血量）：3,849単位 【4,696単位】
 使用量（輸血量）：3,355単位 【4,239単位】

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：9例（0例） 【9例（0例）】
 採血量（貯血量）：34単位 【36単位】
 使用量（輸血量）：28単位 【34単位】

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握：

{ はい いいえ その他で管理 未回答 }	11病院
	22病院
	3病院
	43病院

 実施症例数（同種血併用例）：354例（225例） 【452例（267例）】
 使用量（輸血量）：409単位 【937単位】

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握

{ はい いいえ 未回答 }	11病院
	23病院
	45病院

 実施症例数（同種血併用例）：5例（1例） 【3例（0例）】
 採血量（貯血量）：12単位 【6単位】
 使用量（輸血量）：12単位 【0単位】

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計：358,444.0g 【452,808.5g】
 フィブリノゲン製剤合計：516.0g 【46,750.35g】

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施

{ 外来輸血 在宅輸血 どちらも実施なし 未回答 }	36病院（45.6%）
	1病院（1.3%）
	39病院
	3病院

(2) 外来輸血後の患者観察

{ 医療関係者 患者家族 医療関係者・ 患者家族 }	21病院
	10病院
	6病院

(3) 在宅輸血時の患者観察 医療関係者 1 病院

(4) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科

}	血液内科	15 件
	消化器内科	14 件
	循環器内科	4 件
	その他	14 件

(5) 疾患名・人数

血液疾患	: 22 件 (608 人)
腎疾患	: 16 件 (82 人)
悪性腫瘍	: 17 件 (167 人)
消化管出血	: 15 件 (226 人)
その他	: 13 件 (83 人)

(6) 使用されている製剤の種類

赤血球製剤	: 12, 839 単位
凍結血漿製剤	: 36, 536 単位
血小板製剤	: 14, 055 単位

(7) 実施中または実施後の有害事象発生: 7 病院

1) 内訳: 発熱 5 件、アレルギー症状 2 件、呼吸困難 1 件、その他 2 件

2) 発生時点: 外来輸血

}	院内で実施中	5 件
	帰宅後	2 件

(8) 外来輸血に対応した有害事象発生時のマニュアル: 22 病院 (27.8%)

(9) 外来輸血実施後の院内での休憩時間

}	30 分未満	14 病院
	30 分以上 1 時間未満	12 病院
	1 時間以上 2 時間未満	8 病院
	2 時間以上	3 病院

(10) 外来輸血が必要とされる患者の紹介先が予め決まっている: 10 病院 (12.6%)

(11) 輸血のみを診療目的とする患者の受入: 14 病院 (17.7%)

XII 製剤別購入量・廃棄量について

- (1) 赤血球製剤の購入量は 101,069 単位、廃棄量は 1,529 単位、廃棄率は 1.5%。
- (2) 血小板製剤の購入量は 113,893 単位、廃棄量は 365 単位、廃棄率は 0.3%。
- (3) 血しょう製剤の購入量は 32,294 単位、廃棄量は 773 単位、廃棄率は 2.4%